

第 25 回 日本組織適合性学会大会の御案内

第 25 回日本組織適合性学会大会
大会長 笠原正典
(北海道大学大学院医学研究科
分子病理学分野教授)

皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じます。

この度、第 25 回大会をお世話させていただくことになりました。札幌市での開催は、本学会の前身である日本組織適合性研究会の第 1 回例会が 1973 年に相沢 幹教授（北海道大学医学部病理学第一講座）を世話人として開催されて以来です。本大会では「MHC 研究の進歩:生命科学と臨床医学へのインパクト」をテーマとして、基礎と臨床のバランスがとれたプログラムを組みたいと考えています。会場となる北海道大学学術交流会館は JR 札幌駅からも近く、交通の便の良いところにあります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会 期：平成 28 年 10 月 22 日（土）～ 24 日（月）

会 場：北海道大学 学術交流会館

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

Tel. 011-706-2042（平日 8:30-17:00 限定）

演題応募：平成 28 年 5 月 9 日～ 6 月 27 日

大会内容（予定）

特別講演 3 題、シンポジウム 3 セッション、一般演題、学会賞受賞講演、学術奨励賞候補者口演、QCWS 集会、教育講演（認定 HLA 技術者講習会）、初心者講習会、ランチョンセミナー、ポスター発表、その他

大会事務局

北海道大学 大学院医学研究科 分子病理学分野

〒 060-8638 札幌市北区北 15 条西 7 丁目

第 25 回日本組織適合性学会大会事務局

Tel.: 011-706-5050; FAX: 011-706-7825

E-mail: jshi2016@med.hokudai.ac.jp

運営事務局

日本コンベンションサービス株式会社 北海道支社

〒 060-0807 札幌市北区北 7 条西 1 丁目 1-2 SE 札幌ビル 6 階

Tel.: 011-738-3503; FAX: 011-738-3504

E-mail: jshi2016@convention.co.jp

大会ホームページ

<http://www2.convention.co.jp/jshi2016>

※ QCWS 集会, 教育講演 (認定 HLA 技術者講習会), 初心者講習会は 10 月 22 日に開催します。一般演題募集要項, 参加登録, 宿泊予約, プログラムの詳細などについては, 大会ホームページで, 順次お知らせします。

2016年度 学会賞ならびに学術奨励賞の募集について

会員の皆様

日本組織適合性学会においては、2014年度より、高い権威をもつ「学会賞」と若手学会員の学術研究を奨励する「学術奨励賞」を設けています。

この学会賞は組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において、顕著な業績をあげられた学会員を表彰するものです。学会を代表する学会員を慎重に選考するために、推薦された候補者について、公平かつ十分な審議をへて、受賞者が決定されます。そこで昨年度、学術奨励賞も含めて、各賞候補の資格や選考の手続きなどを明確にした、規定を作成いたしました。本規定において、学会賞は組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、本会の発展に特筆すべき功績を残した者を表彰し、もってその栄誉をたたえることを目的といたします。一方、学術奨励賞は組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野における、秀でた学術的研究を若い学会員に奨励するために優れた若手研究者を表彰し、もって当該分野の発展に寄与することを目的としています。

本規定に則り、2016年度日本組織適合性学会の学会賞ならびに学術奨励賞を、以下の要領で募集いたします。なお昨年度の規定から若干の変更がありますので、以下の要領にしたがい、奮ってご応募ください。

1. 助成内容

組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、本会の発展に特筆すべき功績を残した学会員または名誉会員（年齢制限無し）に学会賞を授与いたします。また、2016年度学術集会大会（第25回大会）に応募された一般演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者（応募者、原則として2016年4月1日時点で満45才以下）に学術奨励賞を授与いたします。授与件数は学会賞1名（賞金10万円）、学術奨励賞若干名（賞金5万円、あるいはそれ以下）を予定しています。

2. 応募資格

(1) 学会賞

本学会の正会員として5年以上の会員歴があり、以下の条件を満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、組織適合性学会の発展に特筆すべき功績を残した実績を有すること。
- 2) 本学会の正会員または名誉会員であること
- 3) 正会員である場合は、当該年度の会費を納入済みであること。

(2) 学術奨励賞

本学会の正会員（当該年度大会までに正会員となる者を含む）であり、以下の条件をすべて満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野に関する学術研究において、その内容が優れていること。
- 2) 当該年度の会費を納入済みであること、または当該年度の大会までに正会員として会費を納入すること。
- 3) 学術奨励賞を受賞した者は、原則として次年度以降も正会員を継続すること。
- 4) 当該年度の大会に、筆頭演者として演題に応募すること。
- 5) 応募しようとする演題の内容において、応募者が中心的な役割を果たしていること。

- 6) 応募しようとする演題の内容が、本学会に未発表であること。
- 7) 受賞後にMHCへ原著論文あるいは総説を執筆できること。
- 8) 過去3年間に学術奨励賞を受賞していないこと。
- 9) 学術奨励賞の応募者は当該年度の4月1日において、原則として45才以下であること。

3. 応募・推薦方法

(1) 学会賞

学会賞は自薦または他薦とし、前年度の12月末までに、候補者に関する以下の書類を日本組織適合性学会事務局 (e-mail: jshijimu@kumamoto-u.ac.jp) および学術奨励賞担当理事 徳永勝士 (e-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp) にメール添付で提出する。なお、他薦の場合には、推薦者は正会員であることが必要です。

1) 履歴書

書式は自由とし、A4用紙にて1枚程度とする。連絡先住所、電話番号、FAX、e-mailアドレス、生年月日、年齢を記入する。

2) 業績概要

書式は自由とし、A4版用紙にて2～3枚程度とする。

3) 論文業績リスト

書式は自由とし、代表的な論文3編について、各1部（コピーも可）添付する。

4) 応募動機（他薦の場合は推薦書）

書式は自由とし、学会賞への応募理由（他薦の場合は推薦理由）をA4版用紙1枚に記載する。

(2) 学術奨励賞

学術奨励賞に応募しようとする会員は、大会の一般演題申込み締切り日までに、以下の書類を大会事務局あてに提出する。

1) 抄録

一般演題に応募した抄録

2) 応募ファイル

1頁目に、演題名、演者（全員）、所属（全員）、および応募者（筆頭演者）の連絡先住所、電話番号、FAX、e-mailアドレス、生年月日、年齢を記入する。2頁目以降に、応募した(1)研究の背景、(2)研究の意義、(3)日本組織適合性学会との関わり（これまでの関わりと、今後の方針・計画など）を、項目ごとに300–400字程度でまとめる。

4. 選考および結果通知について

(1) 学会賞

評議員の中から評議員による選挙で選ばれた選考委員7名により構成される学会賞選考委員会が選考を行う。委員会は、応募・推薦のあった学会賞受賞候補者より、1名を受賞候補者として選考した後に、これを理事会に推薦するものとする。なお、委員は密接な利害関係者の審査に加わらない。理事会は、学会賞選考委員会から推薦された受賞候補者1名について審議し、受賞者を決定した後に、評議員会の承認を経て総会に報告するものとする。

(2) 学術奨励賞

理事長、学術賞担当理事、学会賞選考委員、ならびに学術賞担当理事が選考した若干名の評議員によっ

て構成される，学術奨励賞選考委員会が選考を行う。委員会は，応募のあった奨励賞受賞候補者の中から，当該年大会中の各候補者の口頭発表内容の評価等を参考にして，奨励賞選考委員会にて若干名を受賞候補者として選考した後，これを理事長に推薦し，承認を得る。なお，委員は密接な利害関係者の審査に加わらない。当該年大会中に選考結果を公表し，表彰式を実施する。

5. 受賞者にかかる義務について

(1) 学会賞

学会賞受賞者は，原則として受賞年度に開催される大会期間中に，受賞講演を行う。

(2) 学術奨励賞

1) 学術奨励賞受賞者は，助成が行われた研究課題に関する報告書（様式は別途通知します）を学会事務局宛に提出する。

2) 受賞後原則として3ヶ月以内に，受賞課題に関する原著論文あるいは総説をMHCへ投稿する。

6. 助成金の使途

使途について特に制限はないが，学会賞・学術奨励賞であることの趣旨をご理解のうえ，適切に使用しなければならない。なお，学術奨励賞受賞者については使途と，その内訳を前述の報告書に記載する。

7. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは，大会事務局または学術奨励賞担当理事 徳永勝士 (e-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp) あてに，お願いいたします。

**組織適合性検査技術者認定制度
平成 28 年度 認定 HLA 検査技術者講習会のお知らせ**

組織適合性検査技術者認定制度委員会

委員長 田中 秀則

組織適合性教育委員会

委員長 太田 正穂

日 時：平成 28 年 10 月 22 日（土曜日）時刻：10 時 00 分～12 時 00 分

会 場：第 25 回・日本組織適合性学会 大会会場

北海道大学 学術交流会館

〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 5 丁目（TEL 011-706-2042）

テキスト：テキストは講習会の約 1 ヶ月前に、学会ホームページ上に掲載しますので各自、御参照ください。
会場でのテキストの販売は、いたしません。

受講証明書：認定制度に関わる受講証明の受領を希望される方には、会場入口の受付にて、1 人につき 1 枚を発行いたします。

内 容：各講習とも質疑応答を含めて、35 分を予定しています。

(1) HLA に関する基礎医学的な講演

前仲 勝実 先生（北海道大学薬学研究院 生体分子機能学研究室・教授）

「HLA の立体構造と免疫制御受容体の分子認識機構」

(2) HLA タイピングあるいは抗 HLA 抗体検査に関する講演

高橋 大輔 先生（日本赤十字社 北海道ブロック血液センター検査一課）

「血小板輸血不応における HLA 抗体の臨床的意義」

(3) 臓器移植の臨床医学に関する講演

豊嶋 崇徳 先生（北海道大学大学院医学研究科 血液内科学分野・教授）

「造血幹細胞移植の現状と展望」

この講習会は、今後 HLA 検査技術者認定を取得、あるいは更新しようとする者を対象に実施されますが、それ以外の大会参加者であっても自由に参加することができます。事前に受講希望届けを提出し、事前登録していただく必要はございません。

初心者講習会の開催及び参加希望者募集について

組織適合性学会教育委員会
委員長 太田正穂
組織適合性学会初心者教育部会
部会長 成瀬妙子

日本組織適合性学会では、学会大会プログラムにおいてQCワークショップや技術者講習会を開催し、学会員の組織適合性検査に関わる知識や技術の向上を目指しているところです。しかしながら、組織適合性検査の初心者や各検査法に関する基礎的な情報を要望する会員に十分な説明を行う時間を確保できない状況です。

そこで、今年度も下記の通り、HLA および HLA 検査に関する基礎的な内容の教育訓練を目的とした「初心者講習会」を大会期間中に開催することと致しました。

記

- 1, 対 象：学会員および大会参加者
(組織適合検査の初心者で、HLA の基礎的な内容の教育訓練を希望する方)
- 2, 日 時：日本組織適合性学会第 25 回大会期間中
- 3, 会 場：北海道大学 学術交流会館
- 4, 定 員：20 名程度
(定員数を超える場合は、当委員会で選考を行う場合があります。)
- 5, 参加費：無料
- 6, その他：申し込みに関する詳細は 7 月中旬に日本組織適合性学会のホームページ (<http://jshi.umin.ac.jp/>) に掲載致します (応募締め切りは 8 月末を予定しています)。

以上

平成 27 年度 認定 HLA 検査技術者講習会アンケート集計結果

開催日時：平成 27 年 9 月 12 日（土）8：30～10：30
 会 場：第 24 回・日本組織適合性学会 大会会場
 ホテルレイクビュー水戸 2 階（紫峰鳳凰）

・回答者総数：101 名

1) 旅費・滞在費の財源について 回答者 101 名

①	私費	21 名 (20.8%)
②	職場からの支援	77 名 (76.2%)
③	その他	3 名 (3.0%)

③その他の内訳：研究費から 1 名，①と②を半額ずつ 2 名，

2) 職場・職務について

職場 回答者 101 名

①	病院	50 名 (49.5%)
②	血液センター	15 名 (14.9%)
③	検査センター	8 名 (7.9%)
④	大学(国公立, 私立)	13 名 (12.9%)
⑤	民間企業	8 名 (7.9%)
⑥	その他	7 名 (6.9%)

内訳：(輸血部：33 名，検査部：15 名)

職務 回答者 100 名

①	臨床医	2 名 (2%)
②	臨床検査業務	60 名 (60%)
③	検査受託業務	10 名 (10%)
④	製造業関連業務	3 名 (3%)
⑤	製品開発業務	2 名 (2%)
⑥	教育業務	1 名 (1%)
⑦	研究業務	20 名 (20%)
⑧	その他	2 名 (2%)

3) 参加者の認定制度への関わりについて

認定資格の取得状況および取得への希望 回答者 96 名

- ① 資格取得済み 44 名 (46%)
- ② 資格取得希望 37 名 (38%)
- ③ 資格取得希望しない 15 名 (16%)

取得済みの資格

- a. 認定技術者 18 名 (41%)
- b. 認定指導者 8 名 (18%)
- c. 記載無 18 名 (41%)

取得を希望する資格

- a. 認定技術者 20 名 (54%)
- b. 認定指導者 5 名 (14%)
- c. 記載無 12 名 (32%)

- 4) 学会ホームページに掲載された、講習会テキストの事前確認の有無 回答者 100 名
あり 80 名 (80%) なし 20 名 (20%)
- ※ MHC22-2 にテキストが掲載されることを知るのが難しかった。
 - ※ 掲示場所が解り難かった。

- 5) 講習科目の種類は適切であったか? (数値は 5 点満点の平均点)

平均点 4.7

- 評価の基準：5：すべての科目において適切であった。
- 4：一部の科目に問題があったが、ほぼ適切であった。
- 3：約半数の科目は適切であった。
- 2：多くの科目について不適切であった。
- 1：すべての科目について不適切であった。

- 6) 講習内容のレベルならびに講習テキストは適切であったか? (数値は 5 点満点の平均点)

講演評価点 (3.9) テキスト評価点 (4.0)

- 評価の基準：5：すべて理解できた。
- 4：一部は難解であったがほぼ理解できた。
- 3：約半分は理解できた。
- 2：多くの内容について難解であった。
- 1：すべての内容が難解であった。

要望

教育講演という意味であれば、基礎的な演題を 1 題は入れて欲しい。
疾患と HLA の分子メカニズムについて聞きたかった。

7) 講習時間は量的に適切であったか？（数値は 5 点満点の平均点）

時間的評価点（4.5）

- | |
|----------------------|
| 評価の基準：5：適切であった。 |
| 4：ほぼ適切であった。 |
| 3：もっと長時間の講習を受けたかった。 |
| 2：講習時間はもう少し短くてもよかった。 |
| 1：その他 |

- ★ 各講習とも時間が短く、内容を十分に消化できない。
- ★ HLA タイピング、クロスマッチ、HLA 抗体の検査の実際のような話をして欲しい。
- ★ シーケンスを行っていない者には、次世代シーケンサーは更に難しく理解できない。もっとかみ砕いた内容にして欲しい。

8) 講習会の開催通知は適切であったか？

開催通知	回答数
適切であった。	78 名 (83%)
あやうく見落とすところであった。	10 名 (11%)
他の人から情報を得るまで気が付かなかった。	4 名 (4%)
その他	2 名 (2%)

情報の入手経路	回答数
抄録集	2 名
学会ホームページ	38 名
口こみ	1 名
メール	2 名

要望

- ★ テキストのダウンロードは他の人からの情報による。
- ★ テキストの確認が解り難かった。送付と書かれていたが、実際には学会誌に記載されていたため勘違いをしていた。
- ★ テキストのように事前に抄録集を送って欲しい。
- ★ Up が遅く、ホテルなどの手配が遅れる。
- ★ 講習テキストの配付をして欲しい。
- ★ テキストの入手方法について学会誌 MHC22-2 に記載してあることを書いて頂きたかった。
- ★ 開催通知は解ったが、テキストをみるのが難しかった。
- ★ テキストの掲載場所を探すのに時間がかかった。
- ★ テキストの HP 内のどこに up されているか不明であった。

9) その他の意見

① 講習の内容について

- 臨床の話が解り易く，興味深い内容であった。
- 講習会のスライドをホームページ上で共有できれば好ましい。

② テキスト入手について

- 講習会テキスト（MHC 8月号）へのアクセス方法が難しい。学会ホームページの講習会案内サイトから MHC 講習会テキストにリンクできるようにして欲しい。

③ 会場及び開催時期について

- 交通機関のスムーズな場所が好ましい。
- 遠方より自費で参加しているので，9:30 分開始の方が好ましかった。

組織適合性技術者認定制度委員会・部会名簿（2016）

組織適合性技術者認定制度委員会

委員長：田中 秀則

副委員長：中島 文明

委員：太田 正穂，木村 彰方，高 陽淑，酒巻 建夫，徳永 勝士，成瀬 妙子，西村 泰治

資格審査部会

部会長：成瀬 妙子

副部会長：

部員：安藤 麻子，中島 文明，清水 まり恵

試験問題検討部会

部会長：木村 彰方

副部会長：平山 謙二

部員：一戸 辰夫，太田 正穂，田中 秀則，徳永 勝士，成瀬 妙子，西村 泰治，湯沢 賢治

QCワークショップ部会

部会長：田中 秀則

副部会長：成瀬 妙子，中島 文明，高 陽淑，橋口 裕樹

部員：石塚 敏，一戸 辰夫，太田 正穂，川井 信太郎，吉川 枝里，木村 彰方，黒田 ゆかり，
小林 孝彰，藤原 孝記，宮崎 孔，湯沢 賢治

参考マニュアル作成WG

HLA タイピング WG：成瀬 妙子（リーダー），黒田 ゆかり，吉川 枝里，小川 公明

抗HLA抗体WG：高 陽淑（リーダー），川井 信太郎，藤原 孝記

クロスマッチWG：橋口 裕樹（リーダー），石塚 敏，黒木 聖久，高山 智美，藤井 明美，
金本 人美